



解答と解説は 22 ページにあります。

新聞で
読解力アップ!

Do
チャレ

ワークシート

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしよう。

カルビー

。ポテチ品薄回避

農家負担減へ機械化も

菓子製造大手、カルビー（東京）が、自然災害に負けない生産体制の構築を進めている。十勝地方への台風直撃で原料のジャガイモが不足し、2017年春に主力のポテトチップスが品薄となつた「ポテチショック」の再発を防ぐため、ジャガイモ産地の分散化や病気に強い品種への切り替え、担い手不足の農家支援などに力を入れている。同社が国内で調達する生産で、このうち6割が十勝産。16年夏に十勝で台風被害が起きた際には、同年の道内産の収穫量が1割減り、同社は翌17年春、ポテ

トチップスなど33商品の販売休止や販売終了に追い込まれた。ジャガイモの調達を担う子会社カルビー・ポテト（帯広）は「ショック」は産地が集中していたため起きたと分析。17年以降、空知地方や富良野市などの水田地帯でジャガイモへの転作を推進している。全体に占める割合はまだ数%程度と小さいものの、この2年間で空知と富良野の生産量はそれぞれ3倍になった。



帯広市のカルビー・ポテト川西支所に導入された大型ベルトコンベヤー。自動選別されたジャガイモが貯蔵庫へ運ばれていく=10日

今年の調達量の2割強を占める見通しだ。ほかに、気象変動に強い品種の開発も進めている。担い手不足が深刻化する農家の負担軽減策も充実させる。カルビー・ポテトが大型機械を導入して、希望する契約農家の収穫や選別作業を支援する取り組みを広げるなどして、30年をめどに、カルビーグループで使われるジャガイモのうち国産の比率を現在の80%程度から100%に引き上げる目標を掲げる。中村一浩社長は、「農家の課題に向き合い、ともに歩んでいくことがポテチショックを繰り返さないことにつながる」と力を込める。（徳永仁）